

対外・対内証券投資の動向(2018年3月分)

対外・対内ネットの資本流出額は2017年7月以来の高水準に

- 財務省の「対外及び対内証券売買契約等の状況(指定報告機関ベース)」によると、3月の対外証券投資は+1兆3,034億円(前月は▲2兆5,639億円の処分超)と取得超へ転じた。他方、対内証券投資は▲4兆4,906億円(前月は▲8,966億円)と3か月連続の処分超になった。この結果、対外・対内ネット合計では▲5兆7,940億円(前月は+1兆6,673億円)と資金流出超へ転じ、2017年7月以来の高水準となった。
- 3月の対外証券投資は、中長期債は+1兆6,027億円(前月は▲2兆7,331億円の売り越し)と買い越しに転じた。短期債は買い越し額が前月の+3,147億円から+3,703億円に拡大した。一方、株式・投資ファンド持分は売り越し額が前月の▲1,455億円から▲6,695億円に拡大した。
- 投資家部門別では、生命保険会社は買い越し額が前月の+1,294億円から+8,769億円に拡大し、金融商品取引業者も買い越し額が前月の+9,492億円から+1兆5,681億円に拡大した。また、預金取扱機関は売り越し額が前月の▲3兆3,235億円から▲3,738億円に縮小した。一方、銀行等及び信託銀行(信託勘定)は買い越し額が前月の+1兆2,946億円から+8,159億円に縮小した。このほか、投資信託委託会社等は売り越し額が前月の▲8,871億円から▲9,101億円に拡大した。
- 3月の対内証券投資では、株式・投資ファンド持分は売り越し額が前月の▲3,131億円から▲4兆416億円に拡大し、中長期債も売り越し額が▲618億円から▲1兆2,705億円に拡大した。また、短期債は+8,215億円(前月は▲5,217億円の売り越し)と買い越しに転じた。

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔

03-3242-7065

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

佐々木 貴彦

03-3242-7065

takahiko.sasaki@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

多田出 健太

03-3242-7065

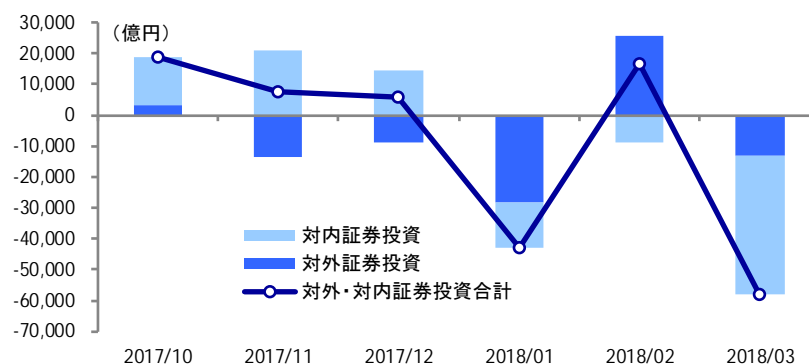
kenta.tadaide@mizuho-bk.co.jp

浅野 江梨子

03-3242-7065

eriko.b.asano@mizuho-bk.co.jp

図表1: 対外・対内証券投資の動向



(注)ここでは、プラスは資金流入超、マイナスは資金流出超を示す。

(資料)財務省、INDB、みずほ銀行

(※図表の計数は詳細項目から合算しており、公表値と僅かに一致しない場合がある。以下同。)

お客さま各位

ここではレポートの一部をご紹介します。
しています。

レポート全ページをご希望の方は、
お取引いただいているみずほ銀行の
お取扱店、またはお取引担当部まで
お問い合わせください。

以上